

第40回西日本軟式野球大会(1部)

5月18日(金)~21日(月)

宮崎県

全日本軟式野球連盟のホームページは↓をクリック

http://www.jsbb.or.jp/game2018/west-japan_1/

【一回戦】5/19:西都原	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	計	打	安	点	振	球	犠	盗	併	失	残
RED STARS(滋賀)	1	0	0	0	0	0	0	0	0		1	27	0	1	9	6	0	1	0	3	5
長崎サニクリーン	0	0	3	0	1	0	0	0	X		4	27	6	4	4	7	3	3	0	2	9

(投手)吉田、浦志一(捕手)奥田

【三】佐々田 【二】里山、小嶋

初回到先頭死球から二盗と一ゴロ三進後に投ゴロで先取点を奪われたが、先発の吉田は二回から六回までを3人ずつで抑え、七回二四球の走者も二盗で仕留めた。八回から登板の浦志も先頭に死四球を与え2失策4走者を出したが要所を締め、継投で相手打線をノーヒットに抑えた。攻めては初回の四球(犠打二進)や二回は敵失からの得点圏走者を寄せ

ずにいたが、三回到先頭9番佐々田の右中間三塁打と野口の連続長短打で同点。平田の内野安打に盗塁を絡めた二三塁に3番里山の中越え2点二塁打で逆転すると、五回には死四球の二死一二塁に7番奥田の右適時打でダメ押し点を加えた。八回一死後、8番小嶋に左中間二塁打が出たが、ここは無得点に終わった。

【二回戦】5/20:西都原	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	計	打	安	点	振	球	犠	盗	併	失	残
宇和島信用金庫(愛媛)	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	27	1	0	4	0	0	0	0	3	0
長崎サニクリーン	0	1	0	1	1	1	0	0	X		4	30	5	2	5	3	3	1	0	0	9

(投手)浦志一(捕手)奥田

【二】奥田2、野口

先発投手の浦志が90球で相手打者27人を残塁0に仕留めた。唯一出した走者は二回先頭に遊内野安打。後続を連続三振に斬った後で二盗死。初回は3者三ゴロ。外野に飛んだのは三回と八回に中飛で、後は内野ゴロに内飛と、奪三振が4個。

田の左越え二塁打で先取点を挙げると、三回一死後にトップの野口が右二塁打。ここは後続が倒れたが四回に敵失から2四球で満塁とし遊ゴロの間に還り追加点。五回にも失策絡みで加点し、六回は先頭6番奥田の右中間二塁打を犠打三進後に本盗で4点目を奪った。

初回到三者三振の長崎は二回先頭久保田が右安打。三ゴロ二進後に奥

【準決勝】5/20:西都原	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	計	打	安	点	振	球	犠	盗	併	失	残
マルイ農協(鹿児島)	0	0	0	1	0	0	0	0			1	27	3	1	4	4	1	0	0	4	7
長崎サニクリーン	1	2	0	1	2	0	1	1	X		8	28	8	7	4	9	1	6	0	3	8

(投手)田山、吉田一(捕手)奥田

【二】佐々田

【二】マルイ1、里山、奥田

6点差を付けた八回裏。先頭四球からの一死三塁に2番平田が中前にコールド打を打ち準決勝戦進出を決めた。初回到3番里山の適時二塁打で優位に立った長崎は、二回にも二死一塁に9番佐々田の中越え三塁打と敵失で2点を加えると、四回二死三塁にも主将の佐々田が中前適時打。五回には奥田の適時二塁打が出ると4番の久保田も七回に右タイムリー

打するなど9四死球に恵まれたが、8安打で効率良く8得点を挙げた。守っては先発の田山が四回まで投げ4四死球に2長短打を浴びながら四回先頭からの連続四死球が二死後に適時打された1失点に抑えると、五回から登板の吉田は八回までに1安打2失策走者に三塁を踏ませることなく救援投手の役割を果たした。

【準決勝】5/21:生目の杜	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	計	打	安	点	振	球	犠	盗	併	失	残
長崎サニクリーン	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	3	33	5	3	5	5	3	1	0	2	8
四国電力(徳島)	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	35	6	2	6	4	2	0	0	2	9

(投手)浦志一(捕手)奥田

【二】四国1

シーソーゲームの2-2で延長十回の長崎は打順良く1番野口から。三塁内野安打に投犠打と二ゴロで三進後に久保田が右に決勝打。先取点は初回の徳島。先頭の二塁打と3番の左線適時打。だが長崎は三回一死後に下位打線の奥田と佐々田が連安打。二死二三塁となったところで二者連続四球の押し出しで同点にすると、五回には先頭平田の安打を犠打で進めた後に三盗。4番久保田の二ゴロで勝ち越し点を奪った。

徳島は二回から五回まで毎回得点圏内に走者を進めるも内飛や内ゴロに抑えられ後続を断られたが、八回二死後に2番打者が右安打。先発でここまで100球近くを投げた浦志が3連続四球を与え押し出しの同点に。5番打者を左飛に仕留め勝ち越しを許さずに、2-2同点の延長戦に突入した。十回裏の徳島は安打と失策で一死一二塁と攻め立てたが4番を右飛、最後の打者を左飛に打ち取って浦志が136球の完投。

【決勝】5/21:生目の杜	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	計	打	安	点	振	球	犠	盗	併	失	残
フンドーキン醤油(株)(大分)	0	0	1	0	2	0	0	1	0	1	5	37	6	3	5	5	4	0	0	0	12
長崎サニクリーン	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	4	38	10	4	1	4	2	2	0	4	9

(投手)吉田、富谷一(捕手)奥田

【二】フンドーキン1、久保田2

二試合連続の延長戦となった。初回の長崎は先頭四球を犠打二進後に4番久保田が中越え二塁打。同点とされた四回には先頭廣瀬、一死後に小嶋、二死後に佐々田のタイムリーと3安打で再び1点差に。五回に1点リードを許した直後には一死二塁にこの試合2本目の二塁打を久保田が右中間に同点打。二死三塁となって先発投手の吉田が自ら右適時打を打ち1点のリードを奪った。六回にも佐々田の試合3安打目の二死三塁は無得点に終わり、1点差で終盤を迎えた。

大分は初回到安打と四球の二死一二塁の先制機を逸した後で、三回に1番打者と三番打者の短長打で同点にすると、五回には敵失を間に3安打を集め2得点。八回二死後には四球を間の2失策に乗じて同点とした。延長十回表。ここまで135球を投げた先発の吉田が試合4個目の四球を先頭に与えた一死二塁に守備の乱れで生還を許しこれが決勝点となった。



長崎サニクリーンは西日本1部大会で準優勝となった。全軟連規程により、次年度はA級に昇格しなければならない。

本年の九州連合会長杯(A級)大会に参加した16チームで福岡からは、福岡サニクリーンと北九州サニクリーン。熊本サニクリーンと宮崎サニクリーンの4チームがサニクリーングループで出場しており、来年からは同じステージに立てる資格を得たが、県内の予選を突破していかなければならない。